Colors, Future!
いろいろって、未来。
川崎市

ごみゼロカフェNews

平成30年度第3号

平成30年度第3回ごみゼロカフェ

～2050年、川崎市の環境をこうしたい！～

カワサキのミライの環境を考えよう

高津市民館　第5会議室
（同日、同会場で「かわさき環境フォーラム」を開催）

開催日時・参加者
平成30年12月15日（土）　14時00分～16時00分
自由参加（計20名）

**「川崎市環境基本計画」の改定に向けて、
ごみ減量化・資源化など2050年の
環境に関するお話を聴き、ワークショップを行いました！**

第1部　どうなる？ 2050年の日本！（講話）

各種データをもとに、日本社会の30年後のイメージについて
紙芝居プレゼンテーションでわかりやすいお話を聴きました。

第2部　2050年の川崎市は？私の暮らしは？（ワークショップ）

2050年の川崎市は？私たちの暮らしは？

30年後の「川崎市の姿」や「自分の暮らし」がどうなっているのかを、みんなで意見を出しあいイメージをつくり、共有しました。

循環型社会に向けて、川崎市の環境はどうなってほしい？

循環型社会に向けて川崎市の環境が2050年にはどうなってほしいか、そのための市民や事業者、行政の取組などについて考えました。

<「ごみゼロカフェ」とは・・・>

ごみの減量化・資源化に係る市民参加を推進するため、様々な年代の市民や事業者など多様な主体がごみ減量について意見交換する場です。講演を聞いたり、意見を交換し、アイディアを出していきます。開催結果は「ごみゼロカフェNews」にまとめて広報するとともに、市のごみ減量施策に反映していきます。

３０年前と比べると、世の中は目覚ましいスピードで進んできました。
この先３０年後は、もっともっと地球にやさしく、暮らしやすい社会にしたいですね！

川崎市では、現在、2021年度以降の新たな「川崎市環境基本計画」の策定に向けた検討を行っています。市民や事業者の環境に係る関心や課題意識を把握し、それらを十分に踏まえた上で、2050年を見据えた中長期的な視野で、計画改定の方向性や取組を検討していくこととしています。

第3回ごみゼロカフェでは、「2050年の川崎市の姿」や、ごみの減量化・資源化をはじめとした川崎市の環境施策のあり方、市民・事業者の果たす役割などについてワークショップで意見交換し、結果を環境基本計画の今後の検討資料とします。

第１部　どうなる？ 2050年の日本！（講話）

今から30年前（1988年）を振り返りながら、30年後（2050年）を想像してみましょう！

・30年前は「バブル」全盛期　＝大量生産・大量消費の時代
・1990年にはごみが溢れ、市が「ごみ非常事態」を宣言　＝ごみの減量・リサイクルの時代
・その後、各種リサイクル法が整備され「循環型社会」へ　＝3R（リデュース・リユース・リサイクル）の時代

この30年間でごみ問題は大きく変化しました。この先、30年後はどうなるでしょうか。
みなさんからどんな意見やアイデアをいただけるか楽しみです。

＜2050年の社会と環境を考えるヒント＞

●2050年＝32年後　32年前(1986年) はどんな時代？
　レンズ付きフィルムカメラ「写ルンです」発売（携帯電話は翌年発売）

●人口の話

日　本の人口	2018年：約1億2600万人	2050年：約1億192万人
川崎市の人口	2018年：約151.7万人	2050年：約150.8万人…見た目にはほぼ変わらない
川崎市の高齢化率	2020年：21.0%	2050年：32.8%　…超高齢社会に（３人に１人が高齢者）

●データでみるごみの現状

＜日本のごみ排出量＞　出典：平成28年度一般廃棄物処理実態調査

日　本のごみ排出量	2016年度：4,317万トン	（１人１日当たり925ｇ）
川崎市のごみ排出量	2016年度：46.1万トン	（１人１日当たり859ｇ）…人口50万人以上の都市で７番目に少ない

＜環境や社会の変化を知るキーワード＞

サーキュラーエコノミー
消費された資源を回収し再利用し続ける
（循環型経済）…欧州で取組が進んでいる
例)自動車のカーシェアリング・車体への再生材料の使用等

Society 5.0
仮想空間と現実が重なり様々な課題が解決

ＩｏＴ（Internet of Things）
すべての人とモノがつながり
知識や情報が共有される

シェアリングエコノミー
個人の資産をプラットフォームを介して
他の人も利用可能に
移動、モノ、空間、スキル、お金
…あらゆるものがシェアできるサービスが普及
例）インターネット上で売り買い、ホテルのように貸し借りし、物を持たない世の中になるかも

脱炭素社会
2050年までにCO_2排出量
80%削減、エネルギー消費
大幅減、電化、再エネ活用

ＡＩ（人工知能）
必要な情報が必要
な時に提供される…
2050年の働き方は？

“えんたくん”を膝の上に乗せて意見交換することで、だんだん皆の距離が近くなって話が弾んでいました。

第2部　2050年の川崎市は？私の暮らしは？（ワークショップ）

4つのグループに分かれて皆で“えんたくん”※1を囲んで考えてみました。

・2050年に起こり得る変化（暮らしの変化・働き方の変化・技術の実用化等）を各自付箋に記入し“えんたくん”に貼り付け、メンバー内でアイデアを共有
・グループごとに環境基本計画の「4つの柱」※2からテーマを選び、2050年に「こんな課題が起こりそう」、「こうなったらいいな」など意見交換

最後に、30年後に向けた「めざすべき環境像」やアイデアを発表していただきました。

※1　”えんたくん”：丸いダンボールでできたワークショップ用の道具です。皆で輪になり膝の上に乗せて机代わりにし、模造紙にそれぞれの意見を付箋に書いて貼ったり直接書き込んだりして意見交換をします。
※2　環境基本計画の「4つの柱」

川崎市環境基本計画6つのまちの姿のうちの「4つの柱」

○ 地域から地球環境の保全に取り組むまち
「低炭素」：地球温暖化、再生可能エネルギー等

○ 環境にやさしい環境循環型社会が営まれるまち
「資源循環」：ごみの減量化、リサイクル等

○ 多様な緑と水につながり、快適な生活空間が広がるまち
「自然共生」：緑、生物多様性、景観等

○ 安心して健康に暮らせるまち
「環境保全」：大気、水質、土壌、化学物質、騒音等

「えんたくん」を活用した意見交換

Aチーム　川崎のごみと『再生可能エネルギー』

2050年にめざすべき環境像

『ごみゼロ！！』のシステム構築　プラから海を守る　ひとりひとりの意識　リサイクルシステムづくり

<「ごみ」について>
●分別マークをわかりやすくし“ごみゼロ”に向けた市民のモチベーションを上げる
●商品購入時に全てリサイクル料金を払い、リサイクルの可能性を追求する
●分解できるビニール袋やプラスチックを導入する
<「再生可能エネルギー」について>
●化石燃料は使わず、微生物や炭化燃料を使う等、全て再生可能エネルギーとする

王禅寺処理センター資源化処理施設
粗大ごみ処理やリサイクルを行う資源化処理施設と環境学習施設を整備

メガソーラー
川崎市と東京電力株式会社の共同事業（浮島と扇島の両地区合計出力約2万kW：一般家庭の約5900軒分の年間使用電力量に相当）

Bチーム　川崎のごみと『地球温暖化』

2050年にめざすべき環境像

スマートなまちカワサキ

<「ごみ」について>
●プラスチックの再生利用について、先進事例を作り、法律を動かす
●出てきたごみはロボットが収集を担い、リサイクル施設まで運ぶ
<「地球温暖化」について（2050年までにCO_2を80%削減するために）>
●まち中に電気ステーションを作り、どこでも電気自動車が充電できるよう市が先進事例を作る
●ボランティアで緑地を増やし、出てくるCO_2を減らす取組を個人と市で協働実施

これからも皆さんに気軽に “ごみゼロカフェ” に参加してもらいたいです！
子どもから大人まで、みんなで住みやすい川崎市を考えていきましょう！

Cチーム
川崎のごみと
『地球温暖化』

2050年にめざすべき環境像

ごみが“お金”になるまち かわさき
企業とコラボした“一つ先のミライブランド”カワサキ

<「ごみ」について>
- ●高齢者でもごみ分別が簡単にできるように製品の素材そのものを変え、リサイクル施設でコストがかからないシステムにする
- ●ごみをきちんと分別すれば、家庭へのキャッシュバックにつながるシステムを作る

<「地球温暖化」について>
- ●（企業とコラボ）武蔵小杉の再開発地域に新しく住むための条件として「太陽光発電を入れる」「ベランダに緑のスペースを作る」などを入れる
- ●まず個人個人で温暖化対策をしていくことを川崎市民で実施し、それを“カワサキミライブランド”として発信する

ごみ分別アプリ
資源物とごみのさまざまな情報を発信するアプリ

ＥＶ収集車
廃棄物発電を活用した「エネルギー循環型ごみ収集システム」による、EVごみ収集車（電池交換型）を日本で初めて実用化

Dチーム
川崎のごみと
『緑』

2050年にめざすべき環境像

孫に優しい、世代を超えた人に優しい カワサキ

<「ごみ」について>
- ●ごみの分別が簡単にできる商品が開発されている
- ●「燃やせるか燃やせないか」の時代から今の分別方法に変わったように、次の30年を考えると技術も発達するので、次世代にしっかり受け継ぎたい

<「緑」について>
- ●農業生産者のサポートや体験の機会の場の創出が必要
- ●ロボットの普及や人工的に雨・風・太陽を作るなどの技術開発が必要

参加者の感想（アンケートより）

- 未来について考える良い機会となった。考えもつかないことがあった。
- 多様な考え方を一つの方向で話して、まとめるのが楽しかった。
- 「30年後を想像してみよう！」というキャッチフレーズに惹かれた。グループの方も熱心で楽しむことができた。
- 参加した方々が環境問題に非常に熱心なことに驚いた。今日の意見等を是非、次の計画に役立ててほしい。
- 今後は中高生など、若者ともカフェを実施したい。
- 「えんたくん」を活用した意見交換は参加者の距離も縮まり、話も弾み良かった。

ごみゼロカフェを開始して3年目、通算9回開催しました。小型家電リサイクル、食品ロスなど様々なテーマを選定し、お子さん、学生、事業者など多様な参加者で、様々な方法で実施してきました。
これからも皆さんが気軽に参加できる “ごみゼロカフェ” を目指し、楽しく暮らしやすい川崎市になるように多くの意見をいただきたいと思います。たくさんの方々の参加をお待ちしています。

■ お問い合わせ 川崎市環境局生活環境部減量推進課 E-mail：30genryo@city.kawasaki.jp
TEL：044-200-2579 FAX：044-200-3923